



中の
川よ
荒だ

青い雲



教育目標

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像「あいさつ がまん あとしまつのできる生徒」

村上市立荒川中学校
令和3年度第3号
令和3年6月30日発行

6月を振り返って

高坪山はじめ山々の若葉が雨により、初夏の景色に一層美しく彩りを添えています。水田の稲も青々と見事に育って美しく映えています。

六月三日（木）・四日（金）に今年度初めての定期テストがありました。生徒会学力向上員会が、各学年の掲示板にノートのまとめ方やテスト対策などを掲示し、「テストを頑張ろう」という雰囲気を高めてくれました。三年生の廊下には、公立・私立高校の学校案内もたくさん掲示されています。テスト直前の放課後、質問教室が開かれ、数学や英語など意欲的に質問する生徒の姿も見られました。勉強は中学生の仕事であり、「一点でも多く…」と願い努力する生徒の姿をうれしく思います。テストの結果に一喜一憂することなく、今までの学習の取組を振り返り、更に目標を高く持つことを期待しています。

六月九日から二十七日まで、下越地区大会がありました。昨年度は感染症拡大防止のために、全ての大会が中止になりました。今年度は感染症対策を十分に取回しながら、実施されました。各競技の会場を応援して回りましたが、どの会場でも激しく熱戦が展開されています。その様子から大会、試合には「あいさつ・がまん・あとしまつ」の視点で感じることがあります。特に『あとしまつ』です。チーム競技・団体競技にお

校長 渡辺 安治

いて、全国の頂点に立てるのはただ一チームです。ほとんどは敗れ去ります。相手も必死ですので、いつも勝てるとは限りません。勝つことから学ぶ、敗戦から学ぶことが大事です。試合のミスから学ぶことも「あとしまつ」です。「勝っておごらず、負けて腐らず」、「勝って兜の緒を締めよ」という言葉のように、考えることが大切です。その後の生活において、大会やゲームでの勝敗をどんな形で生かしていくかが大切です。そこに、部活動の大きな意味があります。これは、誰かが与えてくれるものではありません。部活動への取組、試合の勝敗によって、生徒は成長します。部活動で得たこと（得ていること）を、今後の成長につなげていってくださることを期待しています。

部活動の充実期である五月連休中には、交流試合の自粛に保護者の皆様からもご協力いただき、心より感謝申し上げます。今は交流試合より、命・健康が大事であることを生徒と共に考えていただいたことと推察します。また、今大会においても、競技によっては無観客での実施にもご理解をいただき、ありがとうございます。お陰で現在に至るまで、荒川中学校では感染はありませぬ。しかし、決して油断はできません。感染症が発生するかもしれないという危機感を持ちながら、正常な学校生活のために今後も感染防止に努めて参ります。ますます暑くなりますが、ご理解・ご協力をどうかよろしくお願いいたします。